



非住宅部門  
事例

11

空き家利活用コンテスト2023 優秀賞（地域貢献賞）

## 産前産後ケアハウスはぐはぐ

築55年の家と助産師の想いが生んだ  
鳥取県内初ラウンジ併設型産後ケアハウス



築55年の一軒家が、鳥取県内初の助産師常駐ラウンジ併設型産後ケア施設として再生された。元々は建物オーナーの祖父が、「家族や親族が集える場所」として子ども家族との同居を見据えた家。家族や親族が集う場として建築された空間は、利活用の可能性が広がっていた。

地元の工務店には施設への思いを伝え、ベビー室や水回りを清潔で使いやすくなるようリフォームを依頼。自分たちでできる場所は、メンバーによる手作業により改修が実施された。キッチンにはカウンターを設け、対話の場として機能している。生い茂る庭木や庭石の撤去を行い、駐車場や子どもの遊び場として整備した庭。今ではアロマサロンやパン販売を行い近隣からも足を運ばれるようになった。

「助産師が経営するカフェのような産後ケア施設をつくりたい」との思いを込めたクラウドファンディング成功も後押しとなり、2023年5月、「産前産後ケアハウスはぐはぐ」として開業。0歳児を連れた家族の交流の場となる地域の子育て支援を目指した空間は、地域の母親たちが集まり、孤立しがちな現代の子育てに安心感を与える拠点となった。

この空間は、古き良き家の記憶「集う場」を受け継ぎながら、新しく地域の子育てを通じた「集う場」として、未来を支える施設へと生まれ変わった。

スタッフと家族が協力して作業した漆喰壁は、地域工務店の指導で仕上げられた。優しい素材感で湿気を吸収し、清潔な空気を提供する。当初は洋室も考えたが、和室とすることで「おばあちゃんの家のようなくつろぎ」が実現し、やさしく快適な空間となった。



アロマサロンやパン屋さんが施設に来て販売するなど、縁側は利用者だけでなく近所の方の集いの場になっている。





地元工務店に想いを汲み取ってもらい、白を基調とした明るい雰囲気にリフォームされたベビー室。



白を基調とした明るくやさしいアロマ室。天井や床・壁は、自分たちで作りに上げた。ラウンジ利用者も利用できる授乳室も新設し気軽に使用できると好評。

工務店に想いを相談し何もなかったところにカフェイメージのカウンターを設置。惣菜を置いたり、対話の場になったり用途はいろいろ。今後は料理教室にもチャレンジ予定。





天然い草たたみや照明など、もともとあったものを活かしながら、漆喰や障子など、自らの手でリノベーションを行った。ベースカラーを白とし、一部アクセントカラーを入れ落ち着いた空間になった。

[ DATA ]



【所在地】米子市上福原2丁目9番18号 【構造】木造平屋  
 【築年月】1968年12月 【改修後の用途】産前産後ケア施設  
 【間取り構成】個室4室・キッチン1ヶ所・トイレ2ヶ所  
 【改修期間】2023年1月～3月  
 【改修費用】約1,100万円（設計等費含む）